

# むゆいげ

117号  
No.1117

2017(平成29)年  
8月1日

びぐらしの声

ああ今年も  
びぐらしが鳴き出した

びぐらしの声は  
若くして戦争で死んだ  
二人のあんちゃんの声だ  
そーて

二人のあんちゃんの名を  
死ぬまで呼びつづけていた  
悲しい母の声だ

そーてまた  
二人のあんちゃんのことには  
ひとこともふれず  
だまって死んでいった  
たびびしい父の声だ

ああ今年も  
びぐらしが鳴き出した

みつを

相田みつを美術館  
オリジナルカレンダーより頂きました

発行者:高槻市氷室町2-19-30

浄土真宗本願寺派

萬徳寺

電話(072)696-0666

FAX(072)692-0769

↓スマホからでも見れます

<http://mantokuji.net>

亡き人の思い出があたたかいのは  
あなたを思うあたたかい心が  
この世に残っているからである

浄土にてかならずかならず

ましまいらせそうろうべし

『親鸞聖人御消息』

先

日、ある男性からメールをいただきました。反抗期の息子さんは、荒れた生活を繰り返していったそうです。

ある日、その息子さんがお内仏（仏壇）のお金に手をつけようと引き出しの中を探していて、赤い箱を見つけてきました。中にはDVDが。

何げなく再生してみると、見たこともない女性が自分の名前を呼び、「お母さんはね、あなたを妊娠したときに、いのちの保証はできないと宣告されたの。でもあなたが生まれてくれるのをずっと待っていたのよ。お母さんはあなたと会えないかもしれないけど、どうか皆と助け合って大切な人生を歩んでほしい。お母さんはお浄土であなたに会えることを楽しみにしていますよ」と言っています。



▲1月9日に仏教壮年会で御正忌報恩講に参拝しました。



▲高谷和良さんの三男、諭世君が初参式を受けられました。



▲福田健悟さんの長男、康介君が初参式を受けられました。



▲今年の人生講座は13年ぶりにチベット人歌手のバイマーヤンジンさんでした。



▲4月8日・9日は永代経法要をお勤めました。ご講師は摂津市の宮部雅文師でした。



▲4月8日、生憎のお天気でしたが花まつりを行い、お釈迦さまのお誕生をお祝いました。



息子さんはそれを見て号泣したそうです。

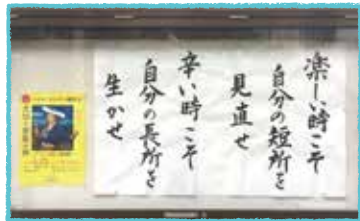
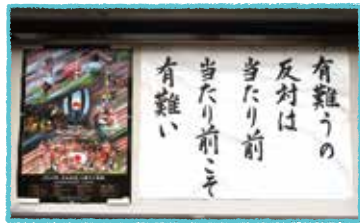
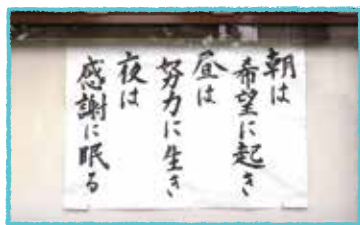
今まで寂しさを紛らわすために本能だけで生きてきた彼ですが、こうして親に願われて自分が存在していることを知ったとき、すべてに感謝できる心が生まれたそうです。

浄土で待つていてくれる人がいる。それを知るだけで、自分の人生を安心して生きていけるのですね。

死んでこの世からいなくなっても、息子を思う母のあたたかな心まで消えてなくなるわけではありません。なぜ安心できたのでしょうか。そねは「母が浄土で待つている」とはつきり言ったからでしょう。そのことに気づけたから、息子さんは安心できたのでしょうか。

亡くなった大切な人を思い浮かべたときに、心に満ちてくる安堵感を忘れないでください。そんな安堵感で、人は故人と永遠につながることができるのですから。

川村妙慶著「人生が変わる親鸞のことば」から戴きました。



▶伝道掲示板。毎月、若坊守が書かせていただいています。

## 萬徳寺は「おてらおやつクラブ」の活動に参加しています。

「おてらおやつクラブ」とは、お寺にお供えされるさまざまな「おそなえ」を、仏さまからの「おさがり」として頂戴し、子どもをサポートする支援団体の協力の下、経済的に困難な状況にあるご家庭へ「おすそわけ」する活動です。(おてらおやつクラブより)

萬徳寺でも月参りやご法事の際、お供えのお菓子をいただきます。それらのお菓子は家族でいただくこともありますし、お寺での会議のお茶菓子や、お手伝いをしてくださった方にお配りすることもあります。しかし、中には賞味期限が切れてしまうこともあり、大変勿体ないことだと胸を痛めていました。そんな時に「おてらおやつクラブ」の活動を知り、仏さまのおさがりが子どもたちの笑顔になればと、経済的に困難なひとり親世帯や、その支援団体に「おさがり」の「おすそわけ」としておやつをお届けしています。これからもお寺の社会福祉活動の一環として続けてまいりますので、皆さまのご理解とご協力の程よろしく願いいたします。



おてら  
おやつ  
クラブ

おてらおやつクラブ公式サイト ▶ <http://otera-oyatsu.club>



## 任職の ひとり言



◆7月には、集中豪雨が連続して北九州、大分を襲い、甚大な被害をもたらしました。

◆8月蝉しぐれの中、今年もお盆の季節を迎えました。お盆の風物詩である日本人の大移動が始まりますね。今ではお盆期間は、海外旅行のための長期休暇になってしまいがちですが、ある若いご夫婦が、子どもをふるさとへの父母に見せに帰るシーンをテレビで観ますと何かホッとします。ご夫婦2人のふるさととは2人にとっては、いのちの源ではないでしょうか。いのちの源とは、ご夫婦のお父さんでありお母さんです。そして仏様になっておられるご先祖です。どうか私たちは、ご先祖、地域、そして阿弥陀さまからいただいたいのちを若い次世代の方々にバトンタッチしていかねばなりません。

◆お盆とは、私のいのち、家族のいのち、そして亡くなられ、お浄土に還られた方々のいのちを見つめる季節でもあります。

個人情報により非表示にさせていただきます。

個人情報により非表示にさせていただきます。

かけがえのない、愛しいお家族との別れ。愛別離苦の悲しみは、人間の最も深い悲しみ、苦しみです。先立たれて往かれた方々は、お浄土で私たちを待っていてくださっていますよ。この尊いご縁でやっとな手を合わせる身とならせていただきました。どうかこの尊いご縁を大切に、お念仏のお心をお味わいくださいませ。

◆6月25日 第17回『人生講座』には、チベットご出身のバイマージンさんをお迎えしての講演会をにぎにぎしく開座させていただきました。バイマージンさんは、この『人生講座』には2度目のご縁です。天候が不順にもかかわらず大勢の門信徒、地域の方々がお参りくださり、誠に有り難うございました。ヤンジンさんには、チベット4,000メートルの村で12人兄弟の9番目で育ったご自身の生い立ちや、大変なご苦労の中、高校、大学でのお話、縁あって日本人のご主人との出会い、結婚。義両親に助けられての日本の生活等、明るく楽しく、また涙を流されながらのすばらしいお話で、聞く者皆感動し、涙いたしました。

◆昨年10月1日より営まれていました第25代専如ご門主の伝灯奉告法要が、5月31日ご満座(最終)の法要がつつがなくつとめられ、円成となりました。萬徳寺も3月31日、48名で団体参拝し、尊いご縁に遇わせていただきました。